令和８年度　城北高等学校　第１回学校運営協議会　概要

令和８年６月１日（月）１７時００分～
場所：校長室

出席者（委員）　敬称略（あいうえお順）
大 栗 一 敏　（地域学校協働活動推進員）
栗 原 ひとみ（徳島市城西中学校 校長）
多 田 穣 治　（アール・エスホーム株式会社 代表取締役）
寺 澤 昌 子　（徳島県立城北高等学校 校長）
藤 本 真 路　（国立大学法人徳島大学 理事、副学長）
見 野 健 司　（徳島県立城北高等学校 ＰＴＡ会長）
美 馬 持 仁　（国立大学法人鳴門教育大学 理事、副学長）
山 崎 眞 弘　（徳島市千松小学校 校長）

１７時００分から生徒の部活動の様子を見学（グラウンド→体育館→図書館）
（１）開会　※１７時３０分から
（２）校長挨拶
（３）出席者挨拶（自己紹介）
（４）会長及び副会長の選出・挨拶
（５）協議

①令和８年度学校経営基本方針・教育目標（案）について
・校長より、本年度のスクール・ミッション、スクールポリシー、重点目標について説明があった。
・「２０４０年問題」を見据えた理系人材不足への危機感から、理系人材の輩出と理数科学科の魅力をもっと広めるべきだとの意見があった。
・委員全員から本年度の学校経営基本方針及び教育目標が承認された。

②本校の教育活動の概要について
・学習及び進路について、進路は８割が大学進学で、徳島大学や鳴門教育大学など地元志向が強い。
・部活動について、入部率が下がってきており、特に集団競技の人数確保が課題である。途中で退部する生徒が増えており、ゲームやＳＮＳなどの影響や、集団競技の難しさが要因として議論された。
・部活動を継続することは、社会に出た際の「忍耐力」や「自己ＰＲの材料」として価値があるため、その意義を生徒に伝えていくべきとの提言があった。

③意見交換「本校のさらなる特色化・魅力化」について
・韓国修学旅行については、１８名の生徒が参加し、現地高校生との交流を含め「期待以上」と非常に高い満足度を得た。
・４５分授業の実施については、導入後のアンケートでは約８割の生徒が「良くなった」と回答している。予習の必要性を感じる生徒が増えるなど、学習習慣にポジティブな変化が見られる。教員側も、浮いた時間を面談や小規模な補習、教材研究に活用していると説明があった。

いただいたご意見（一部）
・「３年生になったら部活を辞めて勉強する」という風潮・流行もあるが、辞めたからといって勉強が充実するわけではない。辞める明確な次の目標がない場合は、顧問や担任が個別にしっかり話を聞いてやるべき。続けること自体の良さを大人が伝えていく必要がある。
・韓国に行きたい人だけが学ぶのではなく、学校全体で韓国文化を学ぶ時間を作ってもよいのではないか。また、韓流好きの女子が集まるのは分かるが、男子が面白がりそうな要素も事前に誘導してあげるとよいのではないか。
・「カリキュラム改革」については非常に面白い。ただし、中学生や保護者には「カリキュラム」と言っても伝わりにくいので、将来の日本の姿や徳島の現状というストー

リーを子ども向けに筋道を立てて説明する等の仕掛けが必要である。

・就職活動でも８～９割が人間関係を重視して入社を決める時代。子どもたちは入学前に「雰囲気が良いか」を非常に気にしており、人間関係の維持への不安がハードルになっている。